

2026年7月24日 早稲田大学アカデミックソリューション

大学職員のための 生成AI業務活用入門

ー業務に定着させる習慣をつくるー





モリキ ギンガ
森木 銀河

AIとヒトをつなぐ人

@gmoriki
@pogohopper8 ✕ **no+e**

- ・ 佐賀県佐賀市 出身
- ・ 修士[教育学]
- ・ クジラとゾウが好き

<https://gmoriki.com>

gmoriki

職場としての大学に、AI人材育成を。

AIとヒトの共生環境を築き、普遍的価値を探究する「場」を守り抜く

CURRENT

gmoriki 代表（個人事業主） / 一橋大学 生成AI業務推進アドバイザー

民間企業にて生成AI活用推進、個人事業として大学・教育機関のAI人材育成。

BACKGROUND

私立・国立大学職員としての実務経験

大学という組織特有の文化・課題に精通。

DELIVERY

教員・職員対象の研修／登壇／アドバイザー

現場に即した実践的なAI活用支援を行う。

本日のプログラム

時刻	内容	形式
13:00-13:10	オープニング	全体+グループ
13:10-13:50	生成AIの基本	講義+デモ
13:50-14:35	業務ワーク	個人+グループ
14:35-14:45	休憩	休憩
14:45-15:20	生成AIのリスク	講義
15:20-15:30	休憩	休憩
15:30-16:35	実践プラン	個人+グループ
16:35-17:00	まとめ	全体

よろしくお願いします！



身も蓋もないことを言うと、大学業務でAIを活用するにはお金をかけて学内で安心して使える良質なAIサービスを導入する必要があります

しかし導入すれば全て解決するわけではありません。
職員が身につけるべきスタンスやリテラシー、
組織が掲げるべきスタンスやポリシーが不可欠です。

職員が身につけるべきスタンスやリテラシー、とは

- 生成AIとは何か、なぜ使わなければならないのかを説明できる
- まずは何があってもとにかく使い続ける
- 個人として/組織として責任あるAI利用を心がける

とかとかです。

「使ったことはある」から、「これから使い続ける」人へ、
そのスタンスや価値観を周りに伝えられる人になりましょう。

今日の要点

生成AIが
ちょっと
わかる

大学の中で
生成AIを
活かせる

生成AIを
当たり前
にする

各種Webサイトを事前にお送りしております

詳しくはZoomのチャット欄なり、事前送付したGoogleDriveのリンクなりWebサイトなりご参照ください。

学内環境によっては閲覧できない場合があります。

その場合は画面上でご覧ください&可能な限り私がカバーします & 後日資料等をお送りしますのでご安心ください。

生成AIとは何か

どんなイメージ？

猫型ロボット
ターミネーター



ロボットみたいなもの？



すごく賢い頭脳？



なんでも答える相棒？



アイデアの泉？

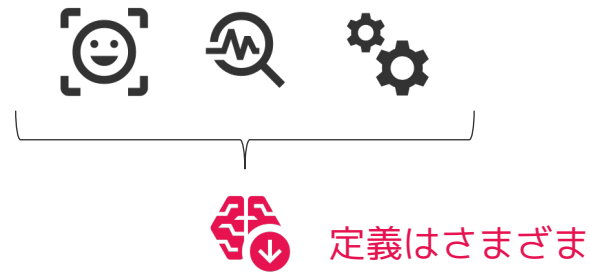


まるで魔法みたい？

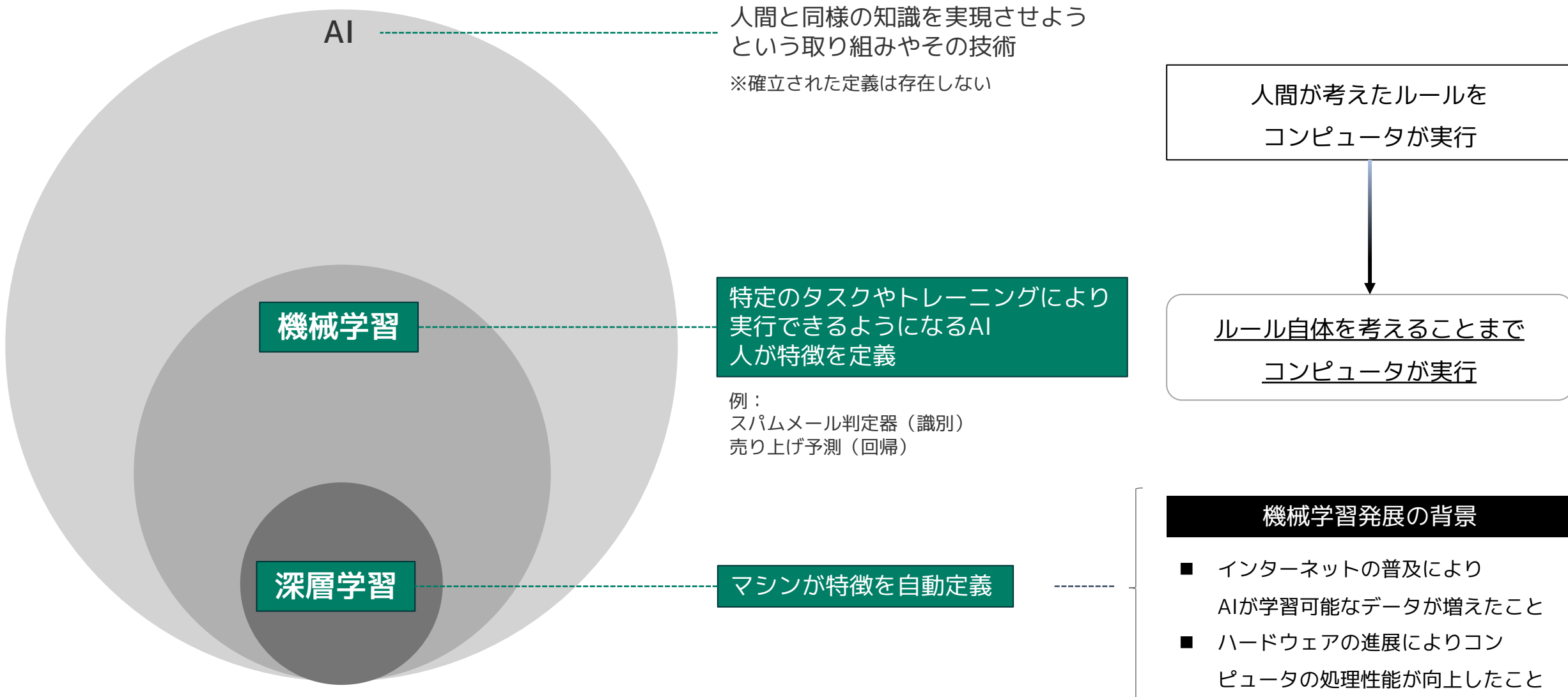


ちょっとこわい…？

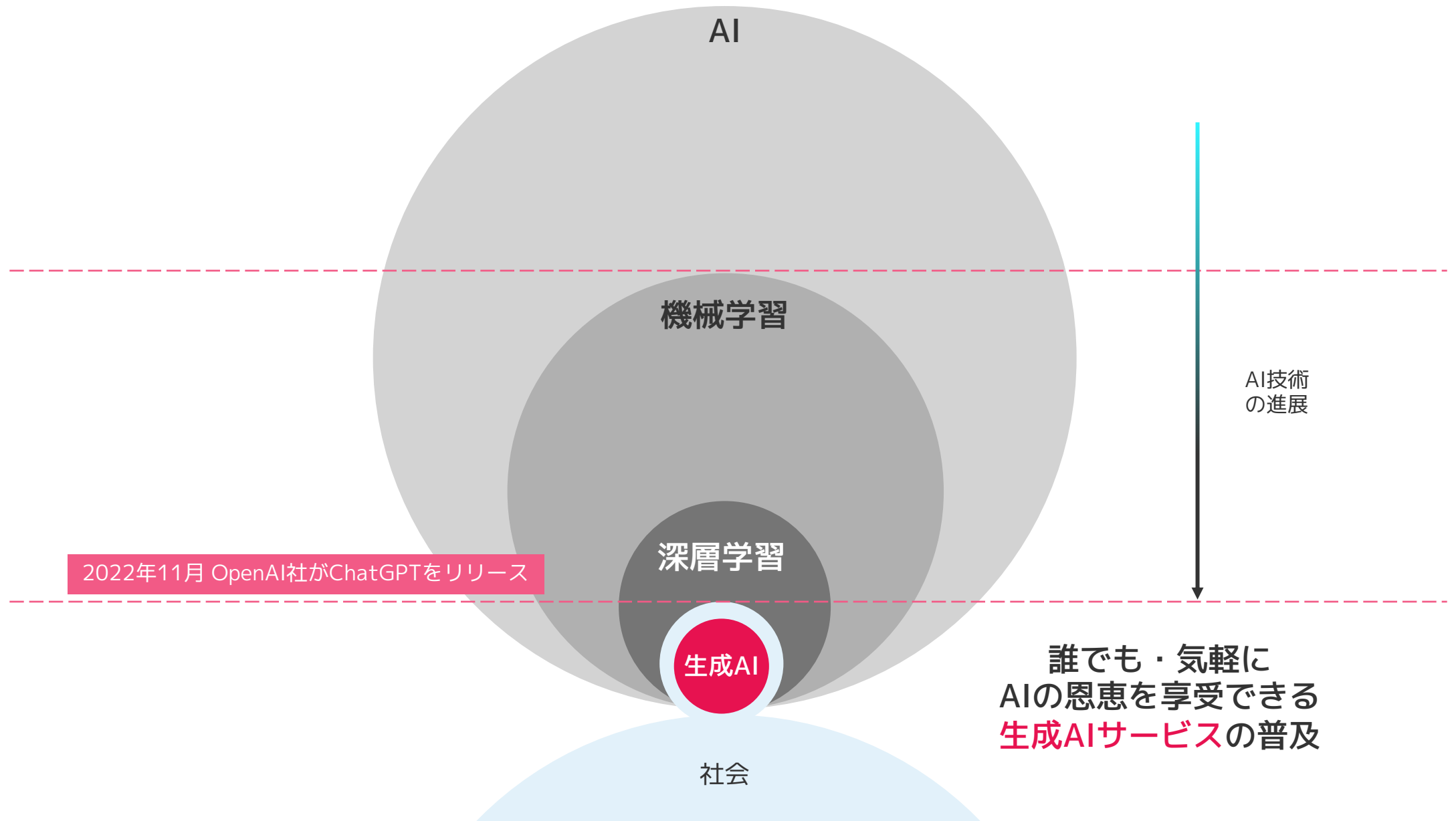
AI = 人間と同様の知識を実現させよう
という取り組みやその技術



生成AIとは何か



生成AIとは何か



生成AIとは何か

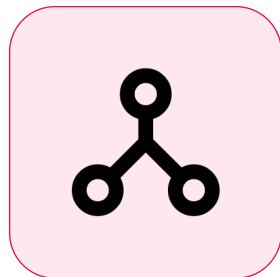
文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルにもとづくAIの総称

(AIモデル…入力データ又は情報にもとづいて推論 (inference) 又は予測を生成する数学的構造)

入力された文章をもとに、文章を生成するAIの場合

※大規模言語モデル (Large Language Models; LLM)

日本の
首都は？



東京都です

入力

AIモデル

生成物



画像・音楽・動画を
生成するAI、
入力可能なAIもある

私たちが普段から使用している言葉（自然言語）でAIに指示を投げる
ことができる

事前にAI開発者がインターネット上の文書等を用いてパターンを大量に学習・調整させている

答えや事実を一言一句覚えて回答するのではなく、入力された文章に後続するデータを推論し続ける

今日登場するAIには
もれなくAIモデルが
搭載されています

文章の生成はもちろん
自分で考えたり自律実行したりできちゃいます



生成AIの具体例

Gemini Notebook

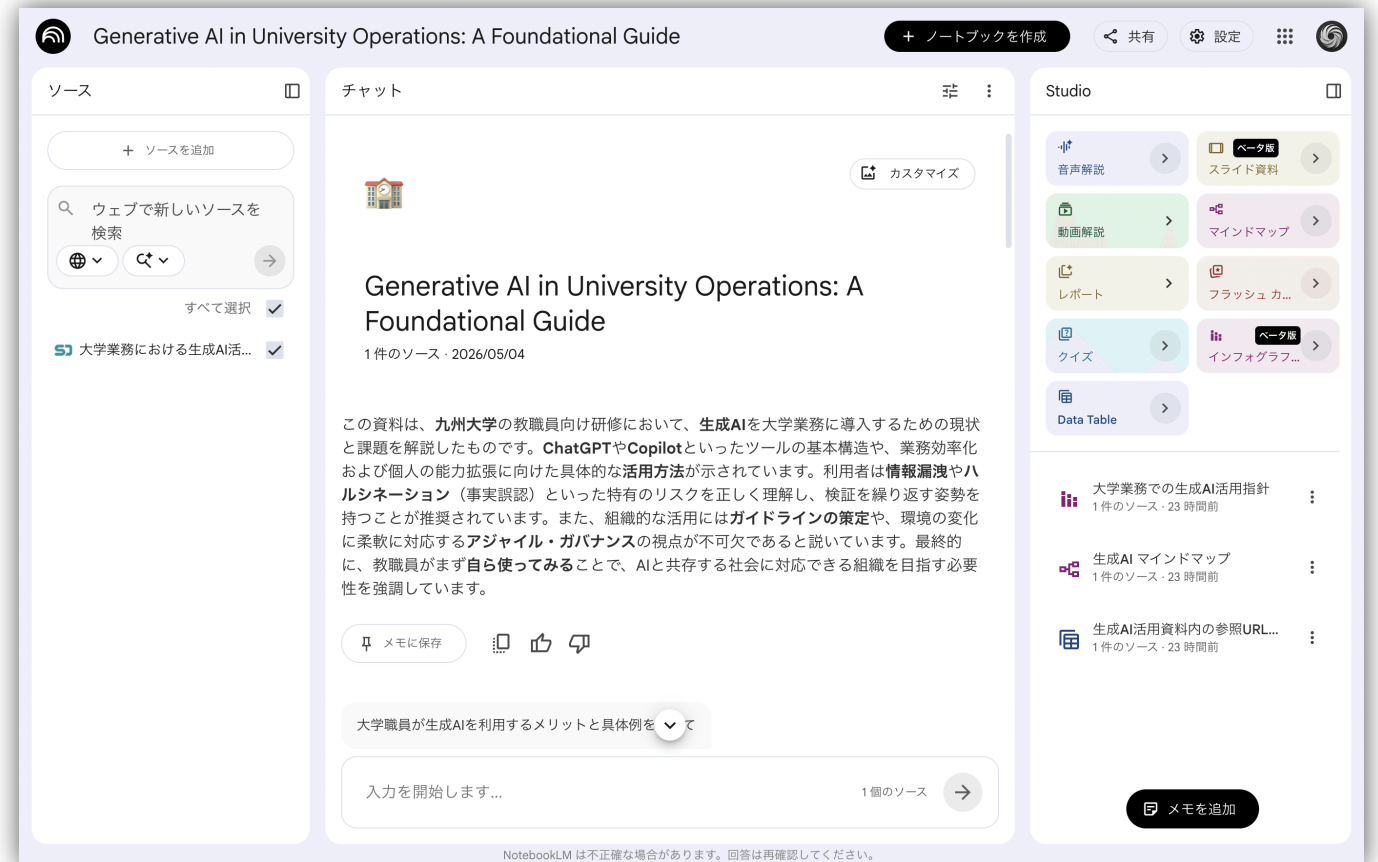
NotebookLM

自分が渡した資料を根拠に、
要約・質問応答・整理をしてくれる
AIリサーチノートです。

元NotebookLM
名前変わったね



Gemini Notebookを使う

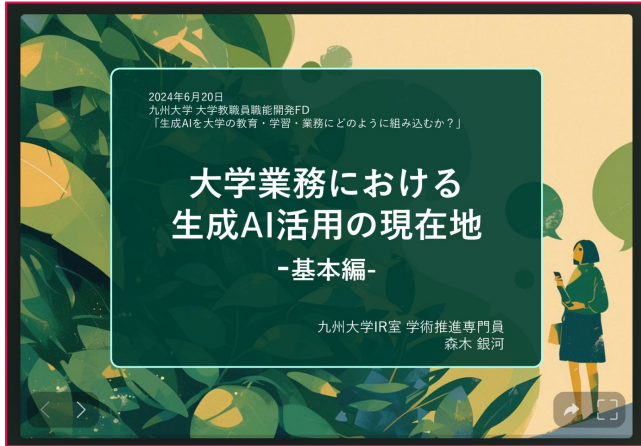


生成AI活用の基礎を
学ぶためにAIを活用



<https://notebooklm.google.com/notebook/8645fd6a-06d0-4957-bd87-79f9e743ca45?authuser=1>

Gemini Notebook を使おう【ソース】



サポートされているファイル形式:
pdf, txt, md, docx, csv, pptx,
epub, 3g2, 3gp, aac, aif, aiff,
amr, au, avi, cda, m4a, mid, mp3,
mp4, mpeg, ogg, opus, ra, ram,
snd, wav, wma, avif, bmp, gif, ico,
jp2, png, webp, tif, tiff, heic, heif,
jpeg, jpg, jpe

どんなデータ形式も
だいたい追加できる



 Generative AI in University Operations: A Foundational Guide

+ ノートブックを作成

共有

設定

ソース

+ ソースを追加

ウェブで新しいソースを検索

🌐

🔍

→

すべて選択 ☒

大学業務における生成AI活...

☒

チャット

カスタマイズ

Generative AI in University Operations: A Foundational Guide

1件のソース · 2026/05/04

この資料は、九州大学の教職員向け研修において、生成AIを大学業務に導入するための現状と課題を解説したものです。ChatGPTやCopilotといったツールの基本構造や、業務効率化および個人の能力拡張に向けた具体的な活用方法が示されています。利用者は情報漏洩やハルシネーション（事実誤認）といった特有のリスクを正しく理解し、検証を繰り返す姿勢を持つことが推奨されています。また、組織的な活用にはガイドラインの策定や、環境の変化に柔軟に対応するアジャイル・ガバナンスの視点が不可欠であると説いています。最終的に、教職員がまず自ら試してみることで、AIと共存する社会に対応できる組織を目指す必要性を強調しています。

メモに保存

大学職員が生成AIを利用するメリットと具体例を

▼

入力を開始します...

1 個のソース

→

Studio

音声解説

ベータ版 スライド資料

動画解説

マインドマップ

レポート

フラッシュカード

クイズ

ベータ版 インフォグラフィック

Data Table

大学業務での生成AI活用指針
1件のソース · 23 時間前

生成AI マインドマップ
1件のソース · 23 時間前

生成AI活用資料内の参照URL...
1件のソース · 23 時間前

メモを追加

NotebookLM は不正確な場合があります。回答は再確認してください。

Gemini Notebook を使おう【チャット】

 Generative AI in University Operations: A Foundational Guide

+ ノートブックを作成

共有

設定

ソース

+ ソースを追加

ウェブで新しいソースを検索

🌐

🔍

→

すべて選択 ☒

 大学業務における生成AI活... ☒

チャット



カスタマイズ

Generative AI in University Operations: A Foundational Guide

1件のソース・2026/05/04

生成AIとはなにか

資料に基づく、**生成AIとは「文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルにもとづくAIの総称」**です 1 ...。

主な特徴や仕組みについては、以下のように説明されています。

1. 基本的な仕組み

- AIモデルの役割: 入力データや情報に基づいて、推論 (inference) や予測を生成する数学的構造を持っています 1 3。
- 生成のプロセス: テキスト生成AIの場合、入力されたテキストのコンテキスト (文脈) に基づき、「次に来る単語の確率分布」を生成し、その確率に基づいて次の単語を予測する

入力を開始します...

1個のソース →

Studio

音声解説

スライド資料

動画解説

マインドマップ

レポート

フラッシュ カ...

クイズ

インフォグラフ...

Data Table

 大学業務での生成AI活用指針
1件のソース・23時間前

 生成AI マインドマップ
1件のソース・23時間前

 生成AI活用資料内の参照URL...
1件のソース・23時間前

Slide 14

Slide 14 text

13 生成AIとは何か 文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルにもとづくAIの総称 (AIモデル...入力データ又は情報にもとづいて推論 (inference) 又は予測を生成する数学的構造) 画像・音楽・動画を生成するAI、入力可能なAIもある AIモデル 入力 生成物 入力された文章をもとに、文章を生成するAIの場合 日本の 首都は？ 東京都です AI事業者ガイドライン (第1.0版) (2024), <https://www.meti.go.jp/press/2024/04/20240419004/20240419004.pdf>

回答の根拠があると安心して納得できる

NOTEDOOKLIM は不正な場合があります。回答は再確認してください。

Gemini Notebook を使おう【Studio】

Generative AI in University Operations: A Foundational Guide

ソース

チャット

ソースを追加

カスタマイズ

大学業務における生成AI活用の現在地：活用のステップとリスク管理

大学教職員が生成AIの特性を正しく理解し、個人での試行錯誤から組織的なガバナンス構築へと繋げるための指針

ステップ1：個人での試行錯誤と理解

生成AIの本質は「確率的な推論」
入力内容に基づき「次に来る単語」を予測する仕組みであり、再現性は保証されません。

AI試用
「まずは試してみる」がリスク分析の第一歩

主要な生成AIサービスの特性

ChatGPT
高い汎用性と多機能性
セキュリティ設定への配慮が必要

Copilot
検索連携とデータ保護
入力の柔軟性に制限がある場合も

Claude
自然な日本語表現と長い文脈
回答の精密さに欠ける場合がある

非構造データ
業務をタスク単位に分解して特定業務フローを細分化し、AIが得意な「非構造データの整理」などの領域を特定して導入します。

ステップ2：組織的なリスク管理と導入

3つの側面からリスクを制御する

入力（機密情報流出）
仕様（再現性の低さ）
生成物（著作権や誤情報）

ガイドラインを「地図」として運用する
固定的なルールではなく、状況に応じて柔軟に更新し続ける「アジャイル・ガバナンス」が不可欠です。

大学職員が生成AIを利用するメリットと具体例を

入力を開始します...

1個のソース

Studioの品揃えの良さは異常

やりすぎだろGoogle（褒めてる）

なんで無料なの？ビッグテック怖い



Studio

音声解説

動画解説

レポート

クイズ

Dashboard

ベータ版
スライド資料

ベータ版
マインドマップ

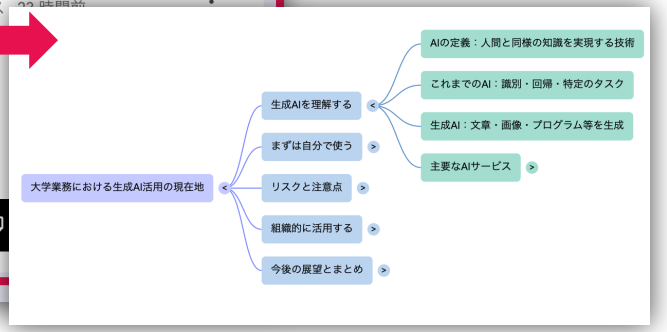
フラッシュカード

ベータ版
インフォグラフィック

大学業務での生成AI活用指針
1件のソース・23時間前

生成AI マインドマップ
1件のソース・23時間前

生成AI活用資料内の参照URL...
1件のソース・23時間前



NotebookLMが何を可能にしているか

「参照」と「生成」において、
情報を渡す設計と根拠確認の経路が強い。

NotebookLM

読む・答えるに特化

1



資料を手元から渡せる

自分の資料をアップして前提を共有。
文脈がそろった状態で、的確に読解・
要約・質問ができます。

2



最低品質が底上げされる

参照に基づく生成と根拠の確認が容易
になり、どの問いでも一定以上の精度
が出しやすくなります。

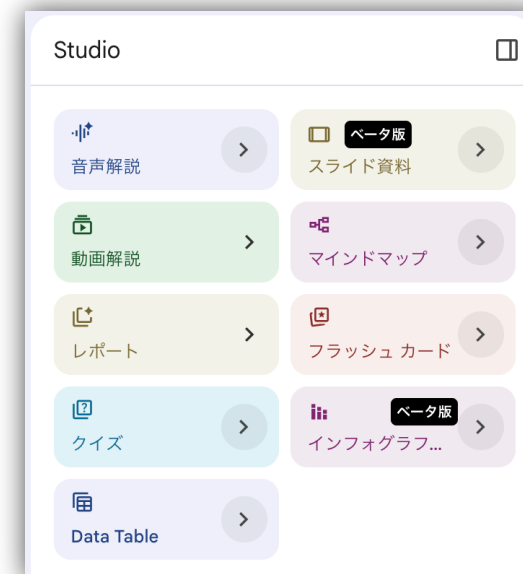
Gemini Notebook は「生成AIとは何か」を体現・拡張するズルいサービス

何でもできちゃう



文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルにもとづくAIの総称

(AIモデル…入力データ又は情報にもとづいて推論 (inference) 又は予測を生成する数学的構造)



駒澤大学：作業65.5%削減

Google環境にAIを入れ、使われるAIへ定着させる。

① Google連携



Gmail
Chat・Docs

② 議事録



文字起こし
要約・整形

③ 定着



AU 83.3%
K-AI活用



平均**65.5%**削減・**90%**完成度

Microsoft Copilot

Word・Excel・PowerPointなどに組み込まれ、
文章作成・要約・データ分析を支援する
Microsoftの生成AIアシスタントです。



Microsoft Copilot

■ Web検索等が可能な対話型テキスト生成AIサービス

- OpenAI社のAIモデル(GPTファミリーや画像生成モデルのDALL・E)を使用している
- Web検索を介したテキストの生成、画像生成や作曲が可能
- みんな大好き**Microsoft製**。Office製品やブラウザ、OSにも組み込まれている



Web検索



画像生成

...etc.

■ 日に日に便利に成長中...



アシスタントから自律型エージェントへ

 Teams 会議自動化 Facilitatorエージェント リアルタイム文字起こし	 Excel 自然言語で数式作成 Python連携 データ分析	 PowerPoint プレゼン自動生成 ブランドアセット活用	 Word 文書ドラフト作成 契約書レビュー トーン調整	 Outlook メール要約 音声コマンド 自動返信設定
---	--	---	---	---

Teams：会議を「次の行動」に変える

会議・チャット・チャンネルを要約し、決定事項と担当を残す。



Excel：表を直接編集できる

Edit / Plan / Chat を切り替え、数式・集計・可視化まで進める。



依頼する



- 予算表を整える
- 複数シートを結合
- 集計列を追加



	A	B	C	D	E	F	G	H
1	月	売上 (万円)	費用 (万円)	利益 (万円)	前年同月比	地域A	地域B	集計
2	1月	1,200	890	310	105%	650	550	1,200
3	2月	1,350	920	430	110%	720	630	1,350
4	3月	1,180	950	230	95%	600	580	1,180
5	4月	1,420	980	440	115%	760	660	1,420
6	5月	1,530	1,010	520	120%	810	720	1,530
7	6月	1,610	1,030	580	125%	860	750	1,610
8	7月	1,390	1,120	270	98%	700	690	1,390
9	8月	1,570	1,050	520	123%	830	740	1,570
10	9月	1,680	1,070	610	130%	890	790	1,680

1 数式と表



- 関数
- 条件付き書式

2 可視化



- グラフ
- ピボット



3 洞察



- 傾向
- 外れ値
- 要約



ワークブックを見ながら、変更は編集可能な形で残る

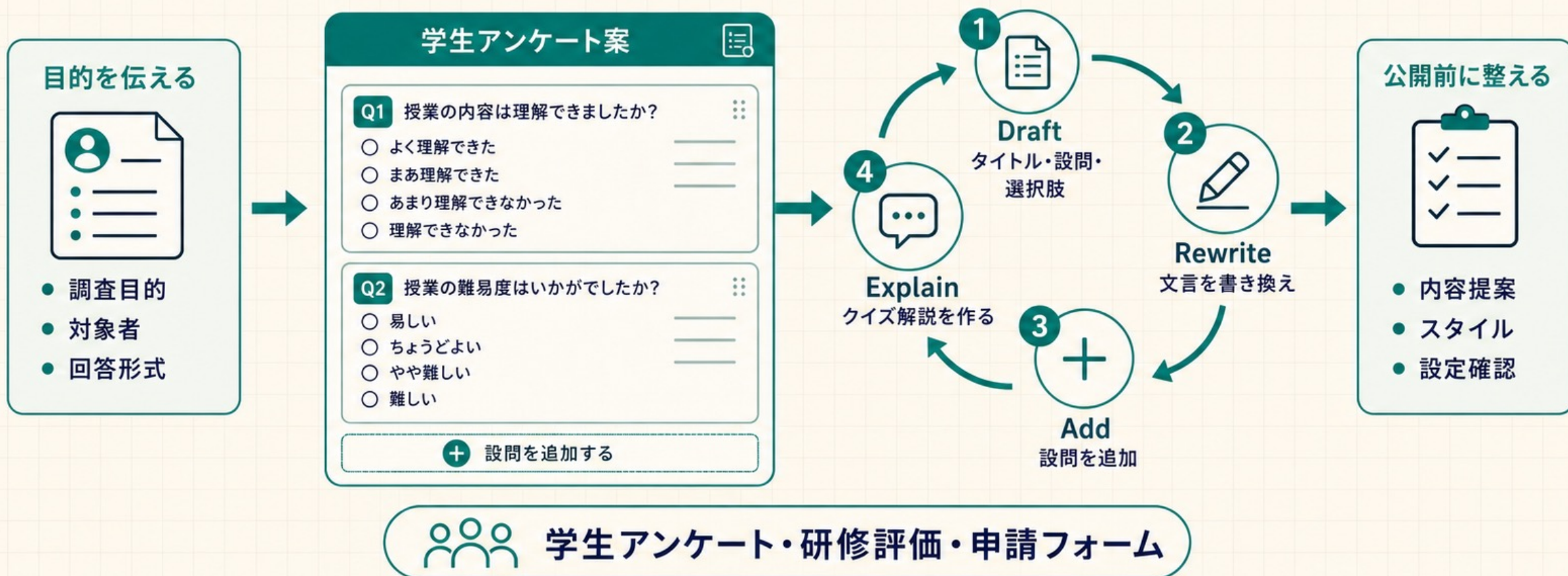
PowerPoint：スライドを直接編集する

Edit with Copilotで、作成・修正・理解をPowerPoint内で進める。



Forms：設問を作り、磨き込む

フォーム草案の生成から、書き換え・追加・説明づくりまで支援する。



北海道大学：月15.6時間を生む試行

事務業務20ケースで、削減時間を実測して次の展開へ。

① 試行設計



職員22名

回答16名

② 効果測定



249.9h/月

15.6h/月・人

③ 業務展開



会議139分/月

発想189分/月



2025年6月測定

室蘭工業大学：全学事務部門へ

Copilotを日常業務に入れ、就職支援シナリオまで育てる。

① 全学導入



2025年6月
事務部門へ

② 就職支援



相談対応
シナリオ化

③ 初代優勝



Copilot Cup
教育機関唯一



13団体中唯一・300名超共有

身も蓋もないことを言うと、大学業務でAIを活用するにはお金をかけて学内で安心して使える良質なAIサービスを導入する必要があります

しかし導入すれば全て解決するわけではありません。
職員が身につけるべきスタンスやリテラシー、
組織が掲げるべきスタンスやポリシーが不可欠です。

なぜ生成AIを使うのか

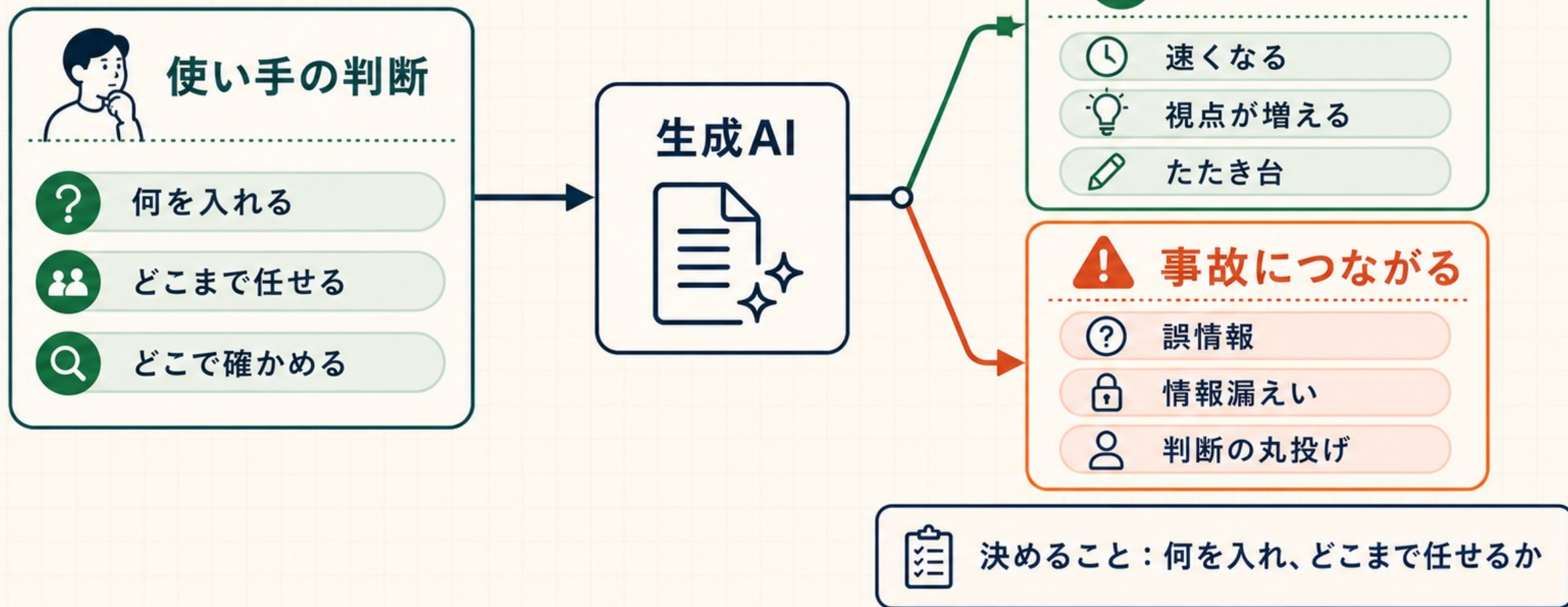
使う理由

とんでもなく
便利だから

とんでもなく
危ないから

便利さも危なさも、使い方で変わる

小さな問い・資料・権限が、助けにも事故の入口にもなる。



なぜ大学職員が生成AIを使うのか

作業を楽にするだけでなく、企画・議論・支援・改善の初速を上げるため



ポジティブ：大学職員をどう支援・強化するか



① 企画のたたき台を早く作れる

施策案、対象者別の案、実施手順を短時間で出せる



② 議論の質を上げやすい

論点、選択肢、判断基準、想定反論を整理できる



③ 説明・周知をわかりやすくできる

学生・教員・保護者ごとに伝え方を調整しやすい



④ 支援の個別化と初動の迅速化

問い合わせ対応、FAQ、案内文の初稿づくりを助ける



⑤ 属人知を組織知に変えやすい

手順書、チェックリスト、想定問答に変換しやすい



ネガティブ：使い方を誤ると何が起きるか



① 誤情報・もっともらしい間違い

事実確認なしに使うと誤案内や誤判断につながる



② 浅い企画・似た案に寄りやすい

たたき台に依存すると独自性や深さが落ちる



③ 判断の丸投げ

例外対応や責任判断まで任せると危うい



④ 個人情報・機密情報のリスク

入力内容と利用環境の管理が必要



⑤ 説明責任の空洞化

“AIが言ったから”では大学の説明責任を果たせない



要点

生成AIは、大学職員の仕事を単に効率化する道具ではない。

企画・議論・支援・改善を前に進める“たたき台”を作る力がある 一方、誤情報や責任の曖昧化も招きうる。

だから重要なのは、『どこまでAIに任せ、どこから人が責任を持つか』を見極めながら使うこと。



AIで下ごしらえを速くする → その余力で、判断・対話・調整・改善に踏み込む

今日は「まずAIチャットを習慣化する」ことをめざします

AIチャットを
そこそこ使う

AIエージェント
をバリバリ使いこなす

あとから効いてくる
AIとの付き合い方

「上手な指示」はAIを相棒にする技術に宿る

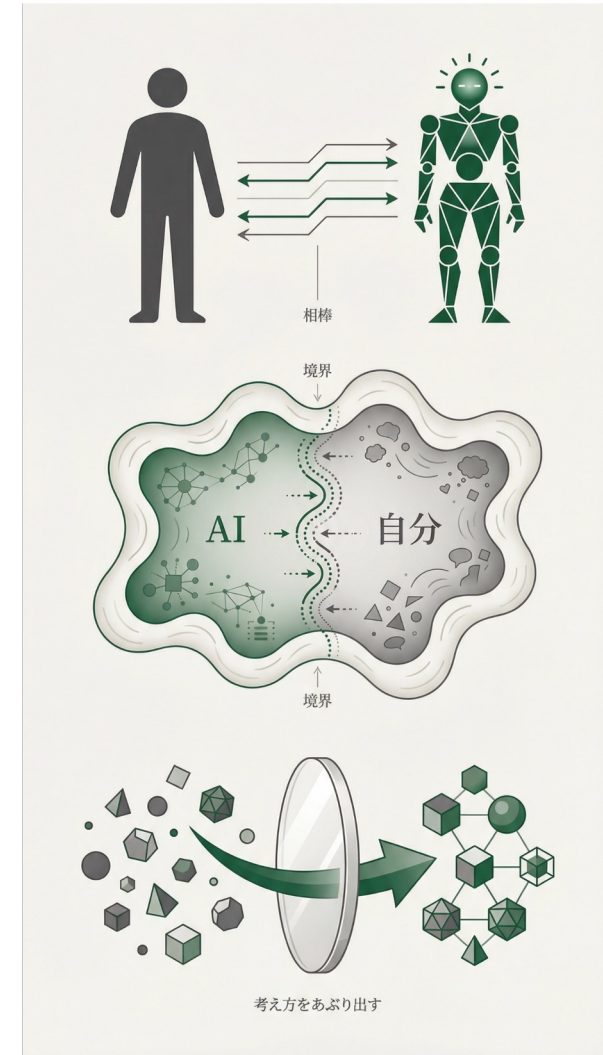
私はAIを、正解を素早く教えてくれる道具というより、**自分の考え方をいったん外に取り出して整え直すための相棒**として使っています。そのとき意識しているのは、大きく四つの使い方です。

1. やりたいことを企画書にしてもらう
2. いろいろな立場の声を出してもらう
3. 情報を行動に圧縮してもらう
4. 無難な案をあえて出してもらう

どれも特別なテクニックではありませんが、AIに投げて放置するアドホックなスキルではなく、**AIに任せている部分と自分で判断している部分の境界にいつも意識を向け続けられるようになる基礎スキル**です。その意識があるかどうかで、AIに「やらされている感」が残るか、自分の判断として腹落ちできるかが変わってきます。

<https://note.com/pogohopper8/n/n6616108810c6>

記事も読んでね



1. 企画書にしてもらう



土台 → 赤入れ → 腹落ち

プロンプト例：

今考えている「部署内ミニ勉強会」のアイデアを、前提・目的・対象・進め方・想定されるリスクまで含めた簡単な企画メモにしてください。あとから赤入れする前提なので、多少荒くてもよいので、一度すべて言語化してほしいです。

パターン 1 —— 活用事例とプロンプト

事例：SD研修の企画書作成

役割設定＋詳細な条件指定＋出力形式の明示により、すぐ使える企画書のたたき台をAIに作らせる。

Prompt

あなたは大学の人事課でSD研修を企画する担当者です。他大学の職員と合同で実施するSD研修の企画書を作成してください。

■ 研修の基本情報

- ・主催：桜丘大学 人事課（幹事校）
- ・共催：近隣3大学（青葉大学、若葉大学、紅葉大学）
- ・対象：入職3～5年目の若手事務職員（各校5名、計20名）
- ・日程：2026年9月12日（土）～13日（日）の1泊2日
- ・会場：箱根研修センター（宿泊・研修室一体型施設）
- ・テーマ：「大学DXと業務改善——AIを味方にする働き方」
- ・予算：1人あたり3万円（宿泊費・食事代・講師料込）
- ・成果物：グループ発表＋各自のアクションプラン

■ 出力形式

以下の項目を含む企画書を作成してください。

1. 研修名称
2. 目的（3つ程度）
3. 期待される効果
4. プログラム詳細（タイムテーブル形式、1日目・2日目に分けて）
5. 講師候補の要件（外部講師1名想定）
6. 予算概算（内訳つき）
7. 準備スケジュール（研修3ヶ月前～当日）
8. 持ち物・事前課題
9. 効果測定の方法

2. いろいろな立場を演じさせる



一人称 → 多視点 → 死角の発見

プロンプト例：

次の文書を読む現場職員になりきってください。読んだときに不安に感じること、不満に思いそうなこと、分かりにくいところをできるだけ率直な言葉で書き出してください。

パターン 2 —— 活用事例とプロンプト

事例：イノベーター理論で新システム導入の反応をシミュレーション

複数の立場を演じさせ、導入前にステークホルダーの反応を先読みする活用法。

Prompt

あなたはイノベーター理論の5つのアダプターグループを演じてください。
それぞれの立場から、以下の新システム導入について意見を述べてください。

■ 導入予定のシステム

桜丘大学では、2027年4月から出張申請・精算を完全オンライン化します。

- ・ 現行：紙の出張申請書に押印 → 事務に提出 → 精算も紙の伝票
- ・ 新システム：Webフォームで申請 → 上長がオンライン承認 → 精算はレシート撮影＋アップロード → 振込は月末一括
- ・ 経過措置：2027年4～6月は紙との併用期間あり

■ 出力形式（5グループそれぞれについて）

1. そのグループの典型的な大学教職員像（具体的に）
2. このシステムに対する第一印象（セリフ調で）
3. 主な懸念点（2～3つ）
4. 懸念を解消するための施策案（事務局が打てる手）
5. このグループを味方につけるためのキーメッセージ

■ 5グループ

- イノベーター（全体の2.5%） - アーリーアダプター（13.5%）
- アーリーマジョリティ（34%） - レイトマジョリティ（34%）
- ラガード（16%）

3. 情報を行動に圧縮させる



イチオシの使い方

プロンプト例：

次に貼る会議メモを読んでください。内容を細かく要約するのではなく、私が明日までにやるべきことを二つだけ、理由と一緒に教えてください。



パターン 3 ―― 活用事例とプロンプト

事例：文字起こしからフォーマット厳守の議事録を作成

会議情報＋式次第＋文字起こし＋フォーマット＋作成ルールを与え、整形された議事録を一発で生成。

Prompt

あなたは桜丘大学教務課の委員会事務局です。以下の材料を使い、議事録フォーマットに厳密に合わせて議事録を作成してください。

■ 会議情報

- ・会議名：令和8年度 第3回教務委員会 ・日時：2026年7月15日（水）15:00～16:30 ・場所：本部棟3階 第1会議室
- ・出席者：田中委員長、佐藤委員、鈴木委員、高橋委員、伊藤委員、渡辺委員（欠席：山本委員）
- ・事務局：教務課 中村課長、小林主任 ・配布資料：資料1「後期時間割（案）」、資料2「成績分布データ」、資料3「カリキュラム改正スケジュール」

■ 式次第

1. 開会
2. 報告事項 (1)前期履修登録状況 (2)成績分布の分析結果
3. 審議事項 (1)後期時間割（案） (2)2027年度カリキュラム改正スケジュール
4. その他
5. 閉会

■ 文字起こし

田中委員長：第3回教務委員会を始めます。報告事項1番、事務局からお願いします。

中村課長：前期の履修登録者数は全学部合計で延べ32,450名、昨年同期比約2%増です。データサイエンス入門が定員200名に対して380名の希望があり抽選となりました。後期は2クラス増設で調整中です。

佐藤委員：抽選に外れた学生へのフォローは？ 中村課長：後期の増設クラスを優先案内します。

田中委員長：続いて成績分布について。 小林主任：資料2のとおり、全学平均GPAは2.68で前年2.71から微減です。経済学部1年生のGPAが2.31と最も低く、基礎科目の不合格率が18%です。

高橋委員：基礎数学の難易度と高校段階の学力のミスマッチが主因です。リメディアル教育の強化を学部で検討中です。

田中委員長：次回委員会で対策案を報告してください。 高橋委員：承知しました。

田中委員長：審議事項に入ります。後期時間割案について。 中村課長：資料1のとおりです。変更点は3点。1点目、データサイエンス入門2クラス増設。2点目、5限開始を16:10から16:20に繰り下げ。3点目、土曜授業を原則廃止し集中講義に振替。

鈴木委員：5限繰り下げ賛成ですが、終了が18:00になると部活動への影響は？ 中村課長：学生課に確認済みで影響なしとのこと。

伊藤委員：土曜廃止はありがたいが教室キャパは？ 中村課長：長期休暇中の教室を集中講義用に確保します。

田中委員長：後期時間割案を原案どおり承認します。次にカリキュラム改正スケジュール。

中村課長：資料3のとおり、10月に各学部から改正案提出、11月教務委員会審議、12月教授会決定、1月理事会承認の流れです。

渡辺委員：10月提出だと各学部FD委員会を9月中に開く必要があります。早めに周知を。 中村課長：来週中に各学部教務委員へメールで周知します。

田中委員長：他になければ閉会します。

■ 議事録フォーマット

―― 令和〇年度 第〇回 教務委員会 議事録 ―― 日時： / 場所： / 出席者： / 欠席者： / 事務局： / 配布資料：

【報告事項】(1)〔議題名〕・報告内容の要旨・質疑応答 【審議事項】(1)〔議題名〕・説明の要旨・主な意見・質疑・結論

【決定事項一覧】【宿題・次回持ち越し事項】（担当・期限）【次回予定】

■ 作成ルール

- フォーマットの見出し・順序を変更しない - 推測で発言者名を割り当てない（不明は「委員」「事務局」等）

- 決定事項・宿題（担当・期限）を必ず明記 - 数字・固有名詞・資料番号は原文に忠実に - 雑談・重複は削り、意思決定と論点が追えるよう要約

4. 無難な案をあえて出させる



無難な案 → 違和感の発見 → らしさの追加

プロンプト例：

次のテーマについて、企画案を三つ出してください。こちらで、物足りない点や自分たちらしくないところを洗い出すために使いたいです。

パターン 4 —— 活用事例とプロンプト

事例：仮説を批判的に分析し、改善版を提案させる

ステップ分割で「批判→改善」の思考プロセスをAIに踏ませ、仮説の精度を上げる。

Prompt

次の2ステップで、私の仮説を改善してください。

■ 仮説

桜丘大学の事務処理が遅い原因は、紙の書類と押印文化が残っていることである。ペーパーレス化を進めれば、事務処理のスピードは大幅に改善する。

■ ステップ1：批判的分析

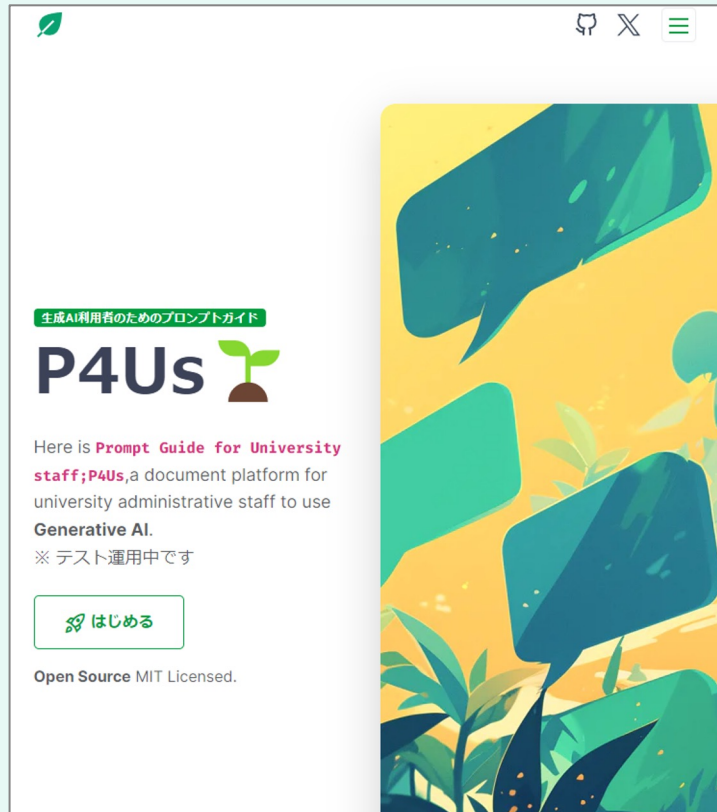
- 正しいと言える部分とその根拠
- 見落としている要因（紙以外に処理を遅くしている構造的な原因）
- 論理の飛躍や過度な単純化がある箇所
- この仮説で施策を打った場合に起こりうる失敗シナリオ

■ ステップ2：仮説の改善版

- 改善された仮説（より精度の高い問題設定）
- その仮説を検証するために集めるべきデータ
- 明るい未来をつくるための提言3つ（具体的なアクション）

プロンプト/活用例を公開中

P4US...Prompt Guide for University Staff



大学職員のためのプロンプトを公開しています



<https://promptforus.com/>

「作業中」の裏でCodexがしていること

画面には短い進捗だけを出しながら、裏では調査・生成・確認を順番に進めている。



見えないところで、検索・根拠確認・画像生成・目視確認を小さな工程に分けて進めている。

ワーク 1

AIで4つの使い方を試してみる

業務ワーク | AIで仕事を一度試す

四つの型から一つ選び、安全を確認してから、別タブのAIへ依頼文を送ります。



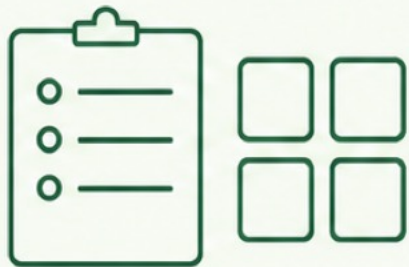
業務ワーク 1/2 | まず個人でAIを試す

個人 13:50-14:22 (32分)

① 13:50-13:55

型と業務を選ぶ

四つの型から一つ



型以外でもOKです



② 13:55-14:00

安全を確認する

公開済み・架空・一般化



③ 14:00-14:15

別タブのAIで試す

依頼文を送り、回答を読む



迷ったらとりあえずやってみましょう



④ 14:15-14:22

自分の言葉で記録

分かったこと・まだ確かめたいこと



! AIの回答全文はサイトへ貼らない

業務ワーク 2/2 | 共有して記録を整える

グループ

14:22-14:32 (10分)



一人2分

① 話す

選んだ型・扱った仕事・分かったこと

② 聞く

仕事と大切にしていること

③ 尋ねる

もっと知りたいことを一つ



評価・助言はしない



個人

14:32-14:35 (3分)



① 新しい視点を加える

② 記録を読み直して整える

朝起きた時間が
一番早い人から
話してください



ラップアップ

頼み方を変えると、同じ仕事の見え方が変わる

AIに任せる役割を選ぶことが、考えを広げる入口になります。



AIの答えは、完成品ではない

価値は、答えを受け取ることより、仕事を考え直せたことにあります。



人の仕事を聞くと、自分の問いが増える

他者の経験は、AIだけでは得にくい現場の視点をくれます。



休憩 & 質疑応答

AIリスク、そして AIガバナンスの準備

Q. 先生や学生が生成AIで論文を書いたらどうするんだ

Q. AIを使ったせいで機密情報が漏洩したらどうするんだ

Q. AIを使って研究能力や思考力が低下したらどうするんだ

Q. AIが生成した文章と人が書いた文章を確実に見分ける方法を教えて

Q. 先生や学生が生成AIで論文を書いたらどうするんだ

A. **そもそも剽窃はダメ** 運用ガイドラインや環境を整備する

Q. AIを使ったせいで機密情報が漏洩したらどうするんだ

A. **そもそも機密情報の漏洩はダメ** 運用ガイドラインや環境を整備する

Q. AIを使って研究能力や思考力が低下したらどうするんだ

A. **低下させないようなAIリテラシーを身につける環境を整備する**

Q. AIが生成した文章と人が書いた文章を確実に見分ける方法を教えて

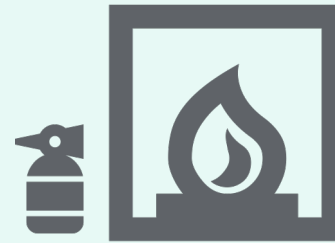
A. **そんなものはない**

既知の問題を増長させるリスクと
AI特有のリスクがある

生成AIのリスクを理解する



生成AIの限界と課題



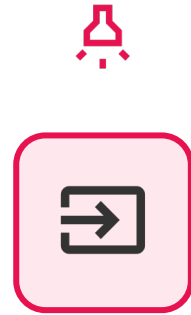
適切な利用方法

3種類のリスク

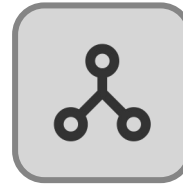


※ 検索システムによってリスクを改善・抑制できる場合もあります
総じて、LLM(大規模言語モデル)の限界と課題を説明します

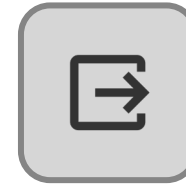
入力の課題



入力



生成AI



生成物

入力は

AIモデルの学習や改善に使用される
個人情報保護法に抵触する

可能性がある

■ AIモデルの学習や改善に使用される可能性がある

- ChatGPTに入力されたデータはAIの開発・改善に使用される可能性がある
- APIを経由 / 一部機能を使用すれば開発・改善に使用されない

※ ただし不正行為の防止等の目的でデータを監視される可能性がある

OpenAI, "Terms of use", <https://openai.com/policies/terms-of-use>

■ 個人情報保護法に抵触する可能性がある

- 個人情報取扱事業者が、あらかじめ本人の同意を得ることなく生成AIサービスに個人データを含むプロンプトを入力し、当該個人データが当該プロンプトに対する応答結果の出力以外の目的で取り扱われる場合、

当該個人情報取扱事業者は個人情報保護法の規定に違反することとなる可能性がある。

個人情報保護委員会, "生成AIサービスの利用に関する注意喚起等", https://www.ppc.go.jp/news/careful_information/230602_AI_utilize_alert/

 個人情報等の機密情報は入力しない



■ 学習に使用されたデータ等に影響を受ける可能性がある

- 回答は学習用データセットやアライメント(調整)の傾向に依存する
例：「結婚式」に関する回答が「教会式の結婚式」に偏る傾向にある

OpenAI, "Models", <https://platform.openai.com/docs/models/overview>

■ 再現性が低い可能性がある

- 「ある単語や文章の次に来る単語や文章を推測し、
「統計的にそれらしい応答」を生成する」AIであり、原則として再現性は保証されない

文部科学省, "初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン",
https://www.mext.go.jp/content/20230710-mxt_shuukyo02-000030823_003.pdf

■ プロンプトに影響を受ける可能性がある

- 「結果の品質は提供する情報の量とそのクオリティ(=プロンプトの書き方)によって異なる」

"Prompt Engineering Guide", <https://www.promptingguide.ai/jp/introduction/basics>

▶ 使用する生成AIの仕様を把握する



■ 著作権法等によって保護されている可能性がある

- 生成物が著作権侵害に係る判断は、「人がAIを利用せず絵を描いた場合などの、通常の場合と同様に判断」される ⇒類似性かつ依拠性を満たすかどうか
- 類似性：「他人の著作物の「表現上の本質的な特徴を直接感得できること」」
- 依拠性：「既存の著作物に接して、それを自己の作品の中に用いること」

文化庁,“AIと著作権”,https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/93903601_01.pdf

文化庁,AI と著作権に関する考え方について,https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuken/pdf/94037901_01.pdf

■ 事実と異なる可能性がある

- 「事実と全く異なる内容や、文脈と無関係な内容などが出力される」
いわゆる幻覚（ハルシネーション=Hallucination）が生じる。
- 現時点で明確な原因はわかっておらず、完全に無くす方法も無い

文部科学省,“初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン”,

https://www.mext.go.jp/content/20230710-mxt_shuukyo02-000030823_003.pdf

過去に生じたインシデント事例



- 弁護士がChatGPTを使って架空の判例を引用した民事訴訟資料を作成・提出した
- 大学教員がChatGPTに「学生がChatGPTを使って課題を解いたかどうか」を判断させた

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGN30E450Q3A530C2000000/>

<https://www.nbcnews.com/tech/chatgpt-texas-college-instructor-backlash-rcna84888>



生成物の正確性と誠実性には注意する

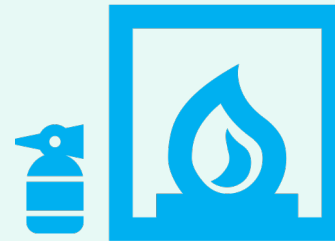
3種類のリスク



生成AIのリスクを管理する



生成AIの限界と課題



適切な利用方法

生成AIの適切な利用方法

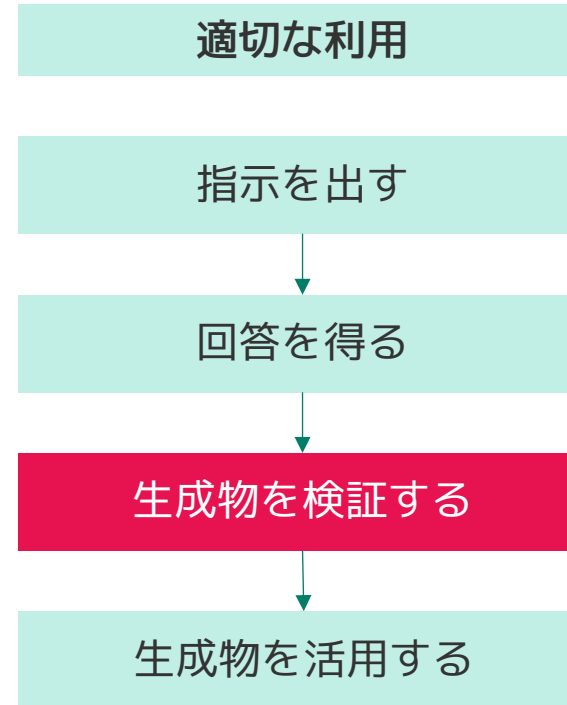
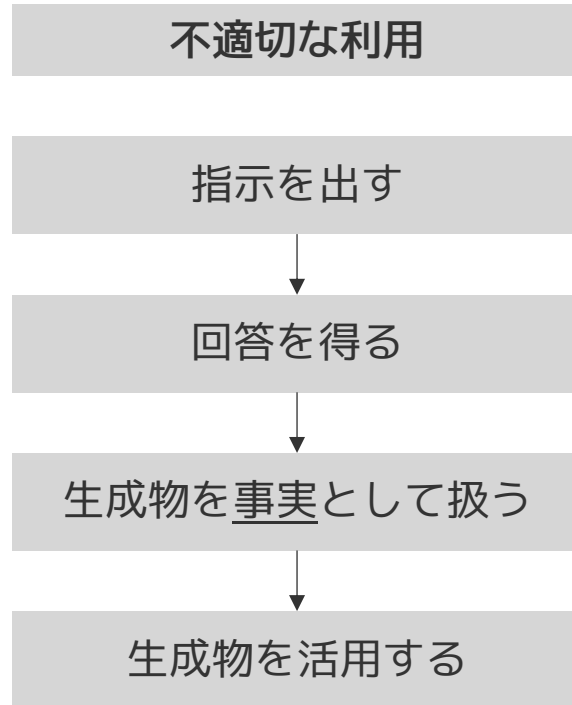
生成物を検証する



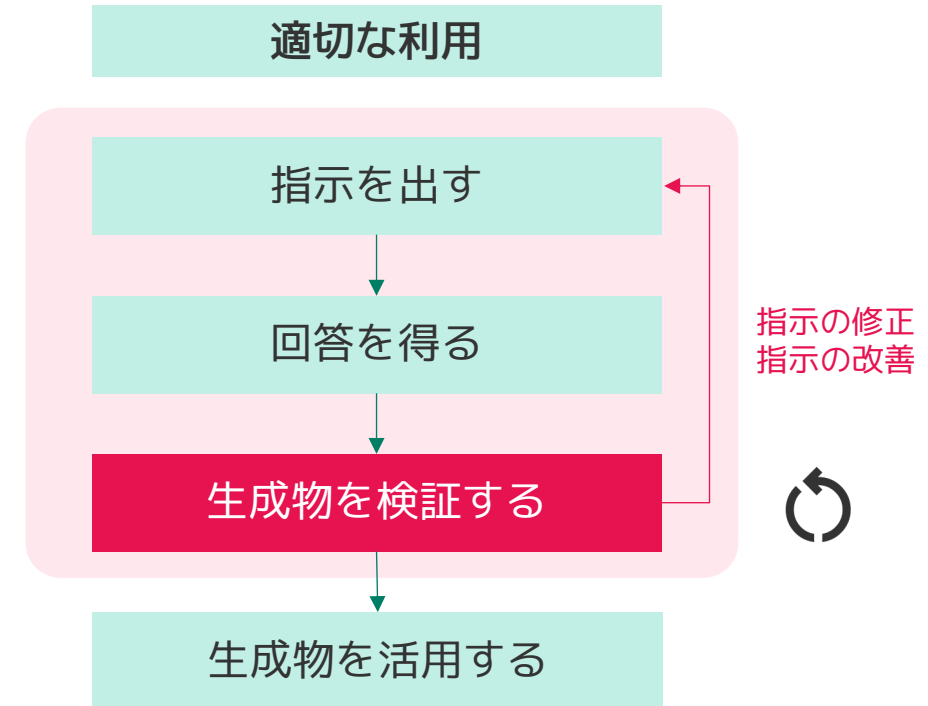
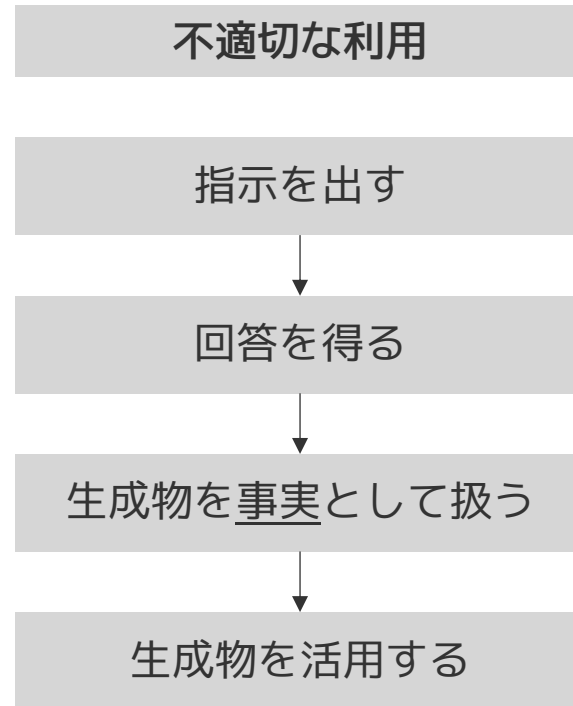
試行錯誤する



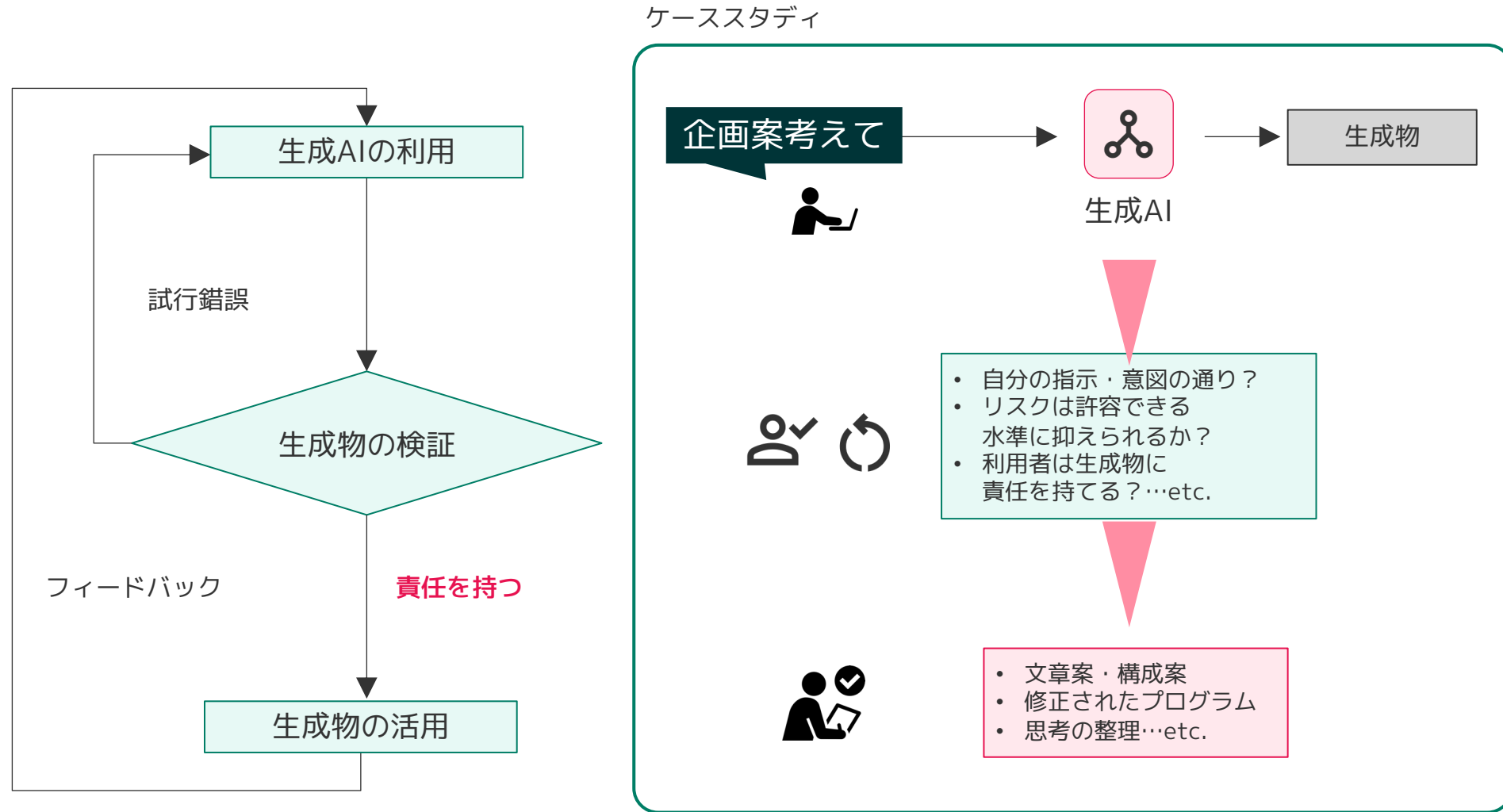
AIから得られる生成物は「AIの提案」であるため
利用者が検証する必要がある



回答内容の不確実性、AI発展の不確実性を理解し、
自分の目的・意図・期待に合わせて試行錯誤する



生成AIの利用から生成物の活用までのチャート



大学の現場でよく耳にするトピック

研修・個別相談で繰り返し出る問いは、この2つに集約されます。

“

「機密情報は
どう扱えば
よいのか」

”

“

「AI活用の
事例を教えて
ほしい」

”

機密情報の扱いはAI特有ではない

AIだけを特別扱いしても、現場の判断は支えられません。

同じ問題：

メール、クラウドストレージ、翻訳サービス、外部委託でも起きてきた。

AI特有：

AI特有のリスクはある。それでも個人判断だけでは解けない。

必要な設計：

学内で実際に使えるガイドへ落とし込む。

活用事例は、聞くだけでは何も変わらない

先行事例は入口です。腹落ちには、自分の職場で試す余白が必要です。



北海道大学

15.6 時間/月



東北大学

1.98h → **0.51**h



研修参加者

81.2%

試行錯誤は、
個人の根性ではなく、
組織が許す環境の中で
育つ。

北海道大学の [Microsoft 365 Copilot試行レポート](#) は、試行参加者22名のうち回答が揃った16名で、1人あたり月平均15.6時間の業務時間削減を報告しています。東北大学の [事務業務における生成AI活用報告](#) は、1時間のオンライン会議の要約作成にかかる時間が平均1.98時間から0.51時間に短縮され、職員向け生成AI研修1,000名以上のうち81.2%が「活用イメージを具体化できた」と答えたことを記しています。

トピックから得られる示唆

トピック	回答例	導けそうな示唆
“ 「機密情報は どう扱えば よいのか」 ”	• AI特有のリスクではないよ • 個人・メンバの裁量で判断できないかもしれないよ • ガイドラインを作ってね	<u>「ツールの工夫」では超えられない判断が求められている</u> <u>「他大学の事例」では代替できない自組織の意味づけがある</u>
“ 「AI活用の 事例を教えて ほしい」 ”	• 既に成果が公開されつつあるよ • そのまま輸入できないかもしれないよ • 自組織の中で腹落ちさせてね	• 「AIに詳しい個人」がどうかできる範疇を超えている • <u>組織として「AIに何を任せるか」を設計する視座が求められている</u>

熱心なAI利用者は多いけど
個人のAI利用者がが何とか
できることは少ない



個人の確認には限界がある

安全に使い続け、社会へ説明し、改善するには、組織の仕組みが必要。

「最後は人間が確認する」は
責任転嫁の呪いになりうる



脆いモデル

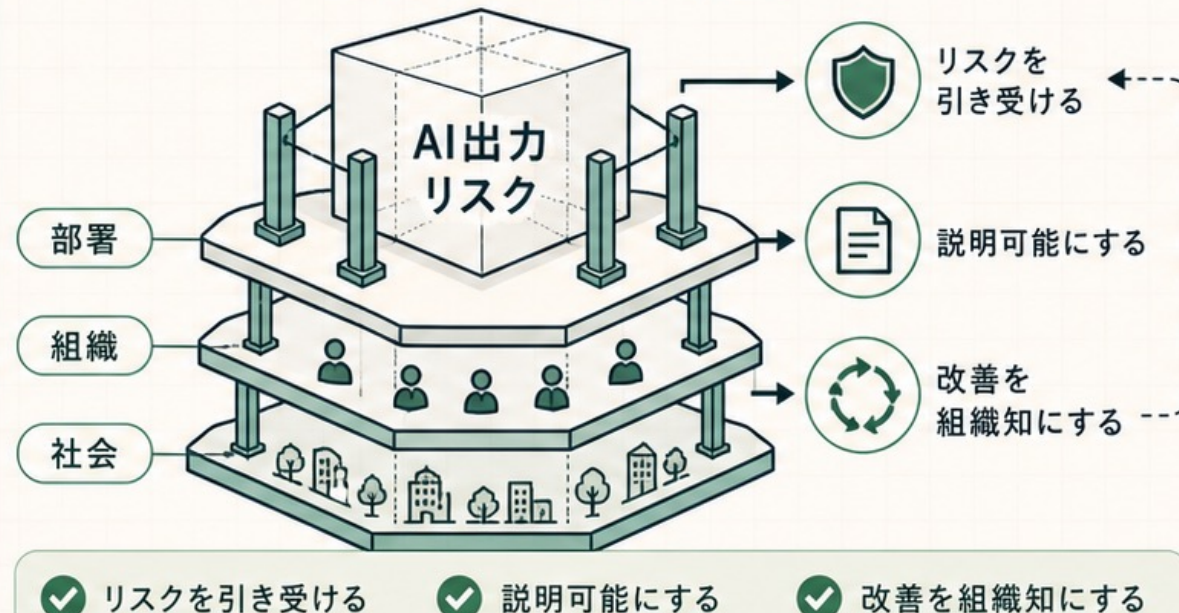
個人の努力に依存



- ✗ 確認が属人化
- ✗ 問題が個人責任化
- ✗ 改善が蓄積しない

構造モデル

組織の仕組みで支える



人間が最後に確認するだけでは足りない。判断を支え、ばらつきを吸収し、学びを戻す多層的な設計が要る。

△ AIを使わない人が悪い

◎ AIを使い続ける営みを組織として支援する

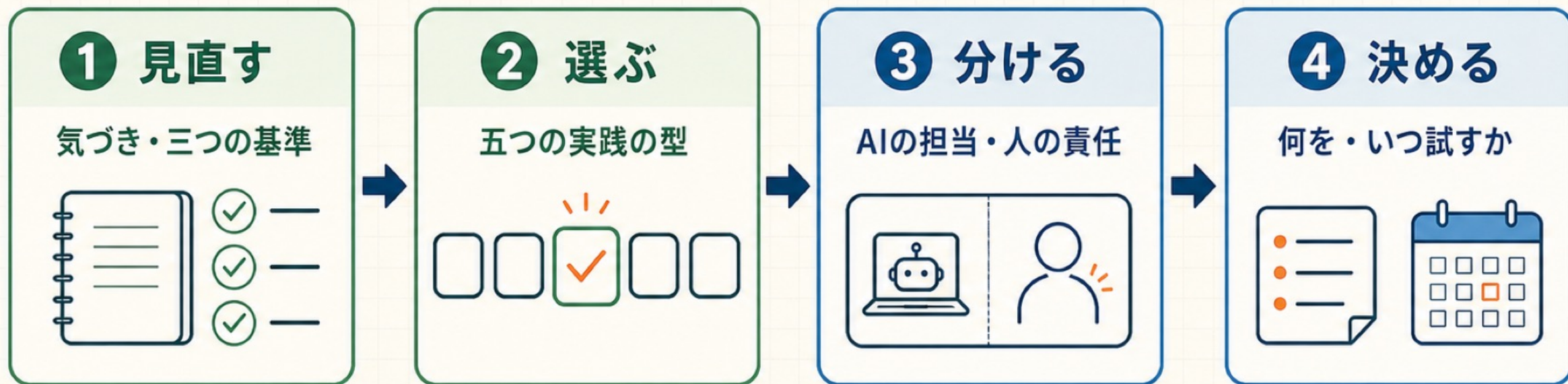
休憩 & 質疑応答

ワーク 2

実践プランを立てよう

実践プラン | 続けられる次の一歩をつくる

気づきと三つの基準を見直し、自分の仕事で続けられる形へ落とします。



実践プラン 1/2 | 続けられる形を個人で決める

個人 15:30-16:10 (40分)

🕒 15:30-15:40

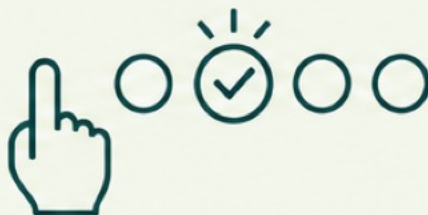
前半を見直す



AIで分かったこと・三つの基準

🕒 15:40-15:50

続け方を一つ選ぶ



五つの実践型から選択

🕒 15:50-16:10

四項目を具体化する



AIに任せる部分



人が確認する部分



最初に試すこと



試す日



実行できる次の一步を書く

型破り也大歓迎



実践プラン 2/2 | 共有して実行しやすく直す

グループ

16:10-16:25 (15分)



一人3分

- 1 話す | 選んだ型・選んだ理由・最初の一步
- 2 聞く | その人が続けやすい理由
- 3 返す | 続けやすくする一言を一つ



個人

16:25-16:35
(10分)



- 1 | もらった一言で見直す
 - 2 | 自分のプランを確定する
-
- ✓ AI・人・行動・日付

朝起きた時間が
一番遅い人から
話してください



ラップアップ

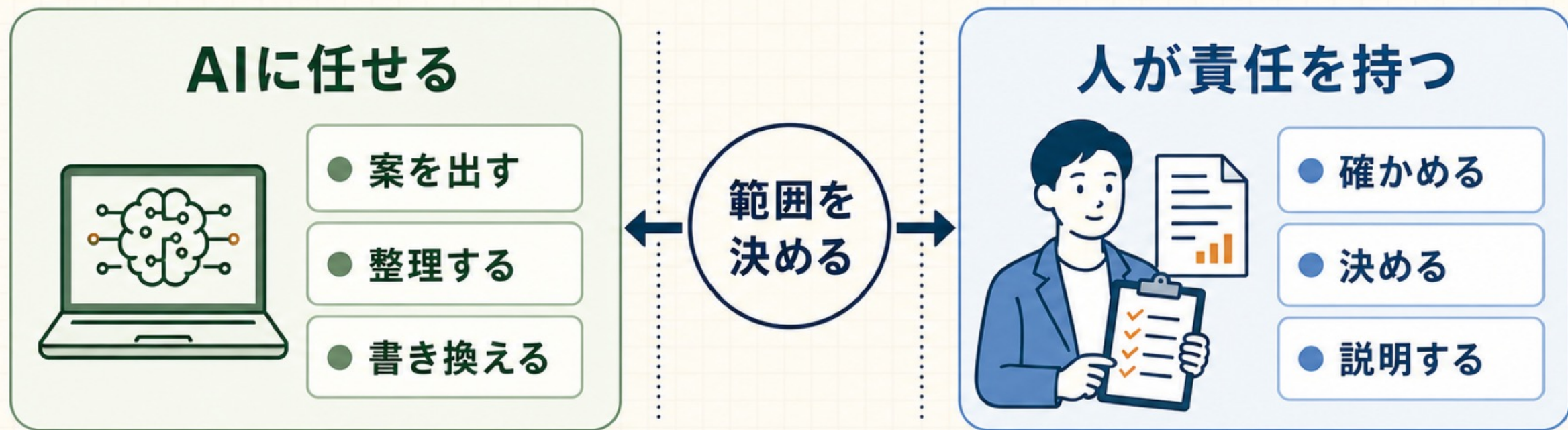
続く実践は、無理のない型から始まる

大きく始めず、自分の時間と周囲の状況に合う形を選びます。



AIに任せる範囲を決めると、人の責任が見える

便利さと責任を、同じ箱に入れないことが大切です。



リスク確認は、試せる条件をつくるため

止めるだけで終わらず、守れる範囲と人の確認を決めて小さく動きます。



さいごに

身も蓋もないことを言うと、大学業務でAIを活用するにはお金をかけて学内で安心して使える良質なAIサービスを導入する必要があります

しかし導入すれば全て解決するわけではありません。
職員が身につけるべきスタンスやリテラシー、
組織が掲げるべきスタンスやポリシーが不可欠です。

職員が身につけるべきスタンスやリテラシー、とは

- 生成AIとは何か、なぜ使わなければならないのかを説明できる
- まずは何があってもとにかく使い続ける
- 個人として/組織として責任あるAI利用を心がける

とかとかです。

「使ったことはある」から、「これから使い続ける」人へ、
そのスタンスや価値観を周りに伝えられる人になりましょう。

お客様から当事者へ

AIに指示を出して結果を受け取るだけの立場ではいけない。



お客様

AIに指示を出し、
結果を受け取るだけ

立場の転換



当事者

AIと共に学び、試行錯誤し、
責任を引き受ける